

スポーツで元気なまちづくり!



30th Anniversary

CHALLENGE DAY

住民総参加型のスポーツイベント

チャレンジデー

2022レポート

2022年5月25日 水 実施



チャレンジデー 2022

CHALLENGE DAY

「スポーツで元気なまちづくり」

チャレンジデー 2022 レポート目次

I. チャレンジデー概要

チャレンジデーとは	6
チャレンジデー 2022 基本ルール	8
チャレンジデー実施自治体へのサポート	10

II. 結 果

チャレンジデー 2022 実施自治体 MAP	14
チャレンジデー 2022 実施概要	16
チャレンジデー 2022 対戦組合せ・結果表	17
全国共通イベント	22
おうちチャレンジデー 2022 実施報告	26
チャレンジデー 2022 アワード	28

III. 自治体別の実施報告 (68 自治体)

チャレンジデー 2022 実施自治体の傾向分析	32
-------------------------	----

北海道

愛別町 (あいべつちょう)	38	鹿角市 (かづのし)	60
芦別市 (あしべつし)	39	上小阿仁村 (かみこあにむら)	61
枝幸町 (えさしちょう)	40	北秋田市 (きたあきたし)	62
剣淵町 (けんぶちちょう)	41	小坂町 (こさかまち)	63
士別市 (しべつし)	42	にかほ市 (にかほし)	64
新得町 (しんとくちょう)	43	八郎潟町 (はちろうがたまち)	65
苫前町 (とままえちょう)	44	八峰町 (はっぽうちょう)	66
名寄市 (なよろし)	45	藤里町 (ふじさとまち)	67
東神楽町 (ひがしかぐらちょう)	46	美郷町 (みさとちょう)	68
芽室町 (めむろちょう)	47	三種町 (みたねちょう)	69
湧別町 (ゆうべつちょう)	48	由利本荘市 (ゆりほんじょうし)	70

青森県

田子町 (たっこまち)	49
藤崎町 (ふじさきまち)	50

岩手県

軽米町 (かるまいまち)	51
葛巻町 (くすまきまち)	52
陸前高田市 (りくぜんたかたし)	53

宮城県

角田市 (かくだし)	54
------------	----

秋田県

井川町 (いかわまち)	55
大潟村 (おおがたむら)	56
大館市 (おおだてし)	57
男鹿市 (おがし)	58
潟上市 (かたがみし)	59

山形県

中山町 (なかやままち)	72
米沢市 (よねざわし)	73

福島県

伊達市 (だてし)	74
-----------	----

茨城県

常陸太田市 (ひたちおおたし)	75
-----------------	----

群馬県

上野村 (うえのむら)	76
南牧村 (なんもくむら)	77
吉岡町 (よしおかまち)	78

神奈川県

秦野市 (はだのし)	79
松田町 (まつだまち)	80

山梨県

南部町 (なんぶちょう)	81
富士吉田市 (ふじよしだし)	82

長野県

東御市 (とうみし)	83
------------------	----

岐阜県

関市 (せきし)	84
羽島市 (はしまし)	85

愛知県

扶桑町 (ふそうちょう)	86
碧南市 (へきなんし)	87
みよし市 (みよしし)	88

京都府

京丹後市 (きょうたんごし)	89
福知山市 (ふくちやまし)	90

和歌山県

上富田町 (かみとんだちょう)	91
-----------------------	----

島根県

海士町 (あまちょう)	92
雲南市 (うんなんし)	93

岡山県

赤磐市 (あかいわし)	94
新庄村 (しんじょうそん)	95

広島県

北広島町 (きたひろしまちょう)	96
三次市 (みやしし)	97

徳島県

鳴門市 (なるとし)	98
三好市 (みやしし)	99

香川県

丸亀市 (まるがめし)	100
-------------------	-----

福岡県

大牟田市 (おおむたし)	101
--------------------	-----

佐賀県

神埼市 (かんざきし)	102
-------------------	-----

長崎県

大村市 (おおむらし)	103
-------------------	-----

熊本県

長洲町 (ながすまち)	104
山江村 (やまえむら)	105

(50音順)

IV. トピック

オリンピック・パラリンピアン・著名人参加レポート	108
チラシ紹介	110
チャレンジデーフォーラム 2022 実施報告	112

V. データ集

チャレンジデー 2022 メディア特集	116
チャレンジデー実施実績表 (1993年～2022年)	126

チャレンジデー 2022

I. チャレンジデー概要



「スポーツで元気なまちづくり」

チャレンジデーとは

5月の最終水曜日に全国一斉開催



毎年5月の最終水曜日に人口規模がほぼ同じ自治体間で、午前0時から午後9時までの間に、15分間以上継続して運動やスポーツなどの身体活動を行った住民の『参加率(%)』を競い合います。対戦に敗れた場合は、勝った自治体の旗を庁舎のメインホールに翌日から1週間掲揚するというユニークなルールによって行われる“まちの威信と名誉”をかけた住民総参加型のスポーツイベントです。

いつでも、どこでも、誰でも参加できるのが特徴



チャレンジデーは、従来のスポーツイベントのように一部の限られた人たちが、ひとつの会場に集まってスポーツをするのではなく、その日、チャレンジデーを実施する自治体にいる人であれば、自宅・学校・職場など、どこでも、どんな運動やスポーツをしてもよく、年齢・性別を問わず誰でも気軽に参加できる点が大きな特徴です。住民がひとつの目標に向かって一致団結することで、仲間意識や連帯感が生まれ、地域のコミュニティづくりや自治体の活性化にもつながります。

勝ち負けは二の次 - Challenge Day Spirit -



チャレンジデーは、運動やスポーツをした住民の参加率(%)を競い合うスポーツイベントですが、より大切なことは勝敗の結果ではなく、みんなが運動やスポーツを通じて一日楽しめたかどうか、その年の目標やテーマが達成できたかどうかです。達成できた自治体と参加者が真の“勝者”なのです。

自治体間の交流のきっかけに！



チャレンジデーがきっかけとなり、さまざまな形で自治体間交流が生まれています。過去の対戦事例では、特産物の交換からお互いの表敬訪問が始まったり、子どもたちの交換交流事業が実施されたりしています。2011年の東日本大震災時には、過去に対戦した自治体から、被災した自治体へ多くの救援物資が贈られるなど、自治体間交流にもつながりました。

全国に「わがまち」を大きくPRするチャンス！



チャレンジデーは、従来にはないユニークなスポーツイベントとしてテレビや新聞などの報道機関に注目されています。チャレンジデーの開催準備から当日の取り組みまでの様子は報道機関によって広く紹介されます。全国に「わがまち」をPRすることができるのも、チャレンジデー実施の大きな特典のひとつです。

住民の健康に対する意識が高められ、 継続することで医療費の削減にも期待



チャレンジデーは、住民が運動やスポーツを通じて健康に対する意識を高めるきっかけとなるスポーツイベントです。運動やスポーツが習慣化し、健康でいきいきとした住民が増えることで、将来の医療費の削減が期待できます。

自治体がひとつになって実施！



チャレンジデーの実施にあたっては各自治体の首長を代表とした実行委員会を結成いただきます。行政、民間団体双方の関係者を広く組織化いただくことで、官民が協力しての開催となり、一体感が生まれます。

自治体がひとつになって取り組むことができるスポーツイベントがチャレンジデーであり、スポーツを通じた健康づくりや、まちづくりにも有効です。

チャレンジデー2022基本ルール

● 趣 旨

住民の健康づくりやコミュニティづくりなど、スポーツを通じた『明るいまちづくり』のきっかけとなることを期待し、5月の最終水曜日に全国一斉に開催する、住民総参加型のスポーツプログラムがチャレンジデーである。

● 基本ルール

【実施日時】 2022年5月25日 水曜日 午前0時～午後9時

【募集対象】 市区町村単位での実施が可能な自治体

【実施方法】 ●15分以上続けて、運動やスポーツをした『住民の参加率(%)』を競い合う。

$$\text{参加者数(}\%) = \text{参加者数(人)} \div \text{人口(人)}$$

【人 口】 2022年1月1日現在の人口を使用する(住民基本台帳登録者数)

【対戦形式】 対戦あり(従来通り) ※ オープン参加もあり

● 参加方法

【参加対象】 チャレンジデー当日に実施自治体にいる全ての人に参加可能。

(住民以外にその地域で働く人、通学・通園する人、観光客等も参加対象となる)

年齢・性別による除外規定は設けない。

【実施競技】 15分間以上、継続して行った運動・スポーツ。

実施プログラムは実行委員会が任意に設定。

【実施時間】 午前0時から午後9時までの間であればいつでもOK

【実施場所】 チャレンジデーを実施する自治体内であれば自宅や学校、職場、スポーツ施設、広場など、どこでもOK

【参加報告】 ● 電話での報告(集計センターの電話番号を事前に周知)

● 報告用紙での報告(事前に報告用紙を配布し自治体内各所に設置した集計BOXへ入れる)

● メール(ライン)での報告(集計センターのアドレスを事前に周知)

【報告時間】 チャレンジデーは午後9時に終了するが、住民等からの報告登録の締切は午後9時30分までとする。

午後9時30分以降の参加登録は無効となる。

【結果発表】 2022年5月25日(水)午後11時を目途に公表

● 参加率の集計

【集計報告】 チャレンジデー実施自治体は、参加人数を以下の時間までにSSFに報告する。

SSFでは全実施自治体の参加率を算出し、全実施自治体および全国の報道機関各社に連絡する。

〔第1回報告〕午後1時 〔SSFからの公式発表〕午後1時30分頃

〔第2回報告〕午後5時 〔SSFからの公式発表〕午後5時30分頃

〔最終報告〕午後10時(最終参加率) 〔SSFからの公式発表〕午後11時頃(最終参加率)

※ 参加率の途中経過を対戦相手と報告し合うことは構わないが、最終参加率はSSFからの公式発表とする。

【結果発表】 午後11時前後にSSFから全実施自治体および全国の報道機関各社に発表する。

参加率の他、カテゴリーに応じて「金・銀・銅」のメダルを確定し発表する。

【禁止事項】 ○ 事前登録・事前報告

- ・参加報告はチャレンジデー当日のみ有効。
- ・事前登録や事前報告を募り、当日の運動・スポーツの実施有無を確認せずに参加報告としてカウントすることは禁止。
- ダブルカウント
 - ・ダブルカウントは禁止。実施者本人が確認して報告。
- 買い物ウォーキング
 - ・個別の呼びかけをせず買い物をしている方をカウントするのは禁止。
 - ・買い物ウォーキングは、チャレンジデーについての周知や呼びかけを前提にカウントすること。

- **アスリートや著名人の参加** P.108 に掲載
アスリートやプロスポーツ選手がチャレンジデーに参加し、他の参加者と一緒にスポーツを楽しむなど大いに盛り上がるイベントとなった。

● **チャレンジデーアワード**

①チャレンジデー大賞、②新人賞、③参加率アップ賞、④ベストPR賞、⑤広報アイデア賞、⑥笹川スポーツ財団特別賞の6つをそれぞれの選考基準にて授与する(実施年により該当なしとする賞もある)。
また、各カテゴリー内の1位に「カテゴリー優秀賞」を授与するほか、①チャレンジデー大賞、④ベストPR賞については、計5回の受賞で殿堂入りとなる。

- **全国共通イベント** P.22 に掲載
全国の参加者の交流やチャレンジデーの盛り上げを目的として、実施自治体の参加者が共通のルールにより参加できるスポーツイベントを実施している。

2022年は新型コロナウイルス感染症対策を講じて実施できるプログラムを参加自治体の投票により決定。

- ・チームふらば～るボール ライト
- ・ビニール傘玉入れ
- ・バスケットボール入れ

● **ワールドチャレンジデー**

【概要】 チャレンジデーには、国内の実施自治体との対戦に加え、海外のチャレンジデー実施自治体と対戦する「国際スポーツ・フォー・オール協議会(TAFISA)」主催の「ワールドチャレンジデー」があるが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止。

チャレンジデー実施自治体へのサポート

●資金面でのサポート

笹川スポーツ財団では、チャレンジデーの実施に必要な経費の一部をサポートしました。

(助成金は人口カテゴリーにより金額が異なります。)

〔助成対象経費〕

- 【人件費】講師・指導者・司会・運営スタッフへの謝金 等
- 【交通費】講師等の旅費、レンタカー、駐車場代 等
- 【宿泊費】人件費に係る宿泊費 等
- 【会場費】会場使用料、会場設営費 等
- 【消耗品費】事務用品代、弁当代、感染症対策備品代 等
- 【印刷費】ポスター・チラシの印刷、コピー代 等
- 【製作費】Tシャツ・看板・トロフィー等の製作費、運動・スポーツの動画作成費 等
- 【広報費】新聞・雑誌等広告掲載費、テレビ・ラジオCM費 等
- 【通信運搬費】用具・器具などの運搬費、臨時電話・FAX通信料 等
- 【賃借料】物品の借上げ代、電話・FAXの借上げ代、レンタカー代 等
- 【保険料】スポーツ傷害保険料 等
- 【委託費】集計・報告やプログラム実施に係る業務委託費 等

●イベントグッズの提供

笹川スポーツ財団では、チャレンジデーの周知に必要な各種グッズを提供しました。

①ポスター (B2サイズ、カラー)

※ 配布上限枚数はカテゴリーに応じて異なる。

カテゴリー1	150枚
カテゴリー2	200枚
カテゴリー3	250枚
カテゴリー4	300枚
カテゴリー5	350枚
カテゴリー6	400枚



②Tシャツ (サイズ:S・M・L・XL)

※ 配布枚数はカテゴリーに応じて異なる。

カテゴリー1	50枚
カテゴリー2	55枚
カテゴリー3	60枚
カテゴリー4	65枚
カテゴリー5	70枚
カテゴリー6	85枚



③大型横断幕 (1.1m×4.4m:カラー)

※ 初実施、10回開催の自治体のみ



●担当者への情報提供

チャレンジデー実施に関する確認・連絡事項等について定期的にメールニュースを配信し情報の共有を図りました。

●チャレンジデー 2022 の PR

チャレンジデーを盛り上げ、より一層多くの方々に周知するため、全国の報道機関各社（新聞・テレビ・ラジオほか）へプレスリリースを配信するなど、積極的に広報活動を行いました。

●参加率速報の提供

開催当日に全実施自治体の参加率を一定時ごとに取りまとめ、実施自治体をはじめ全国の報道機関各社に参加率速報としてプレスリリースを配信しました。

●チャレンジデーフォーラムの開催

チャレンジデー実施後、チャレンジデー実施自治体をはじめ、スポーツに携わる関係者を対象に、スポーツ振興に有益な情報を共有する場としてオンラインにてフォーラムを開催しました。

●メダル認定証の授与

実施自治体の健闘を称え、参加率に応じて金・銀・銅のメダル認定証を授与しました。

※メダル授与の基準は「人口」と「参加率」によって決定します。

チャレンジデーメダル授与基準表

カテゴリー	人口	金メダル	銀メダル	銅メダル
1	6,000 人未満	65%以上	40～65%未満	40%未満
2	6,000 人～15,000 人未満	60%以上	36～60%未満	36%未満
3	15,000 人～35,000 人未満	55%以上	32～55%未満	32%未満
4	35,000 人～75,000 人未満	51%以上	28～51%未満	28%未満
5	75,000 人～160,000 人未満	47%以上	24～47%未満	24%未満
6	160,000 人以上	43%以上	20～43%未満	20%未満



メダル認定証

(26cm×20cm：アクリル製)

チャレンジデー 2022

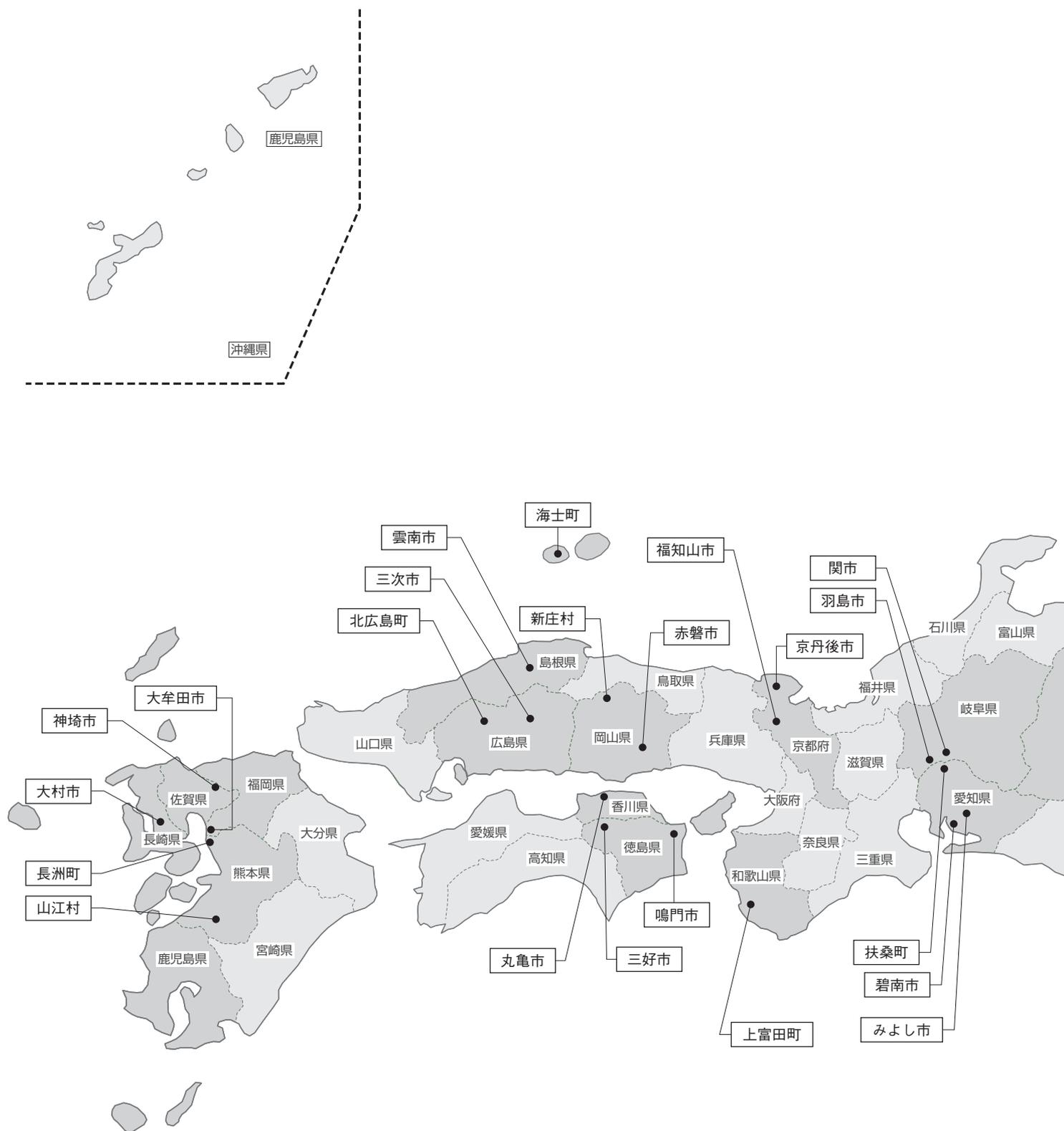
Ⅱ. 結 果



「スポーツで元気なまちづくり」

チャレンジデー 2022 実施自治体 MAP

68カ所 (34市 28町 6村)



チャレンジデー 2022 実施概要

【開催】2022年(令和4年)5月25日水曜日 午前0時～午後9時

【実施自治体】68自治体(34市28町6村) 【総人口】2,175,832人

【総参加者数】995,724人 【平均参加率】45.8%

【後援】総務省、外務省、厚生労働省、経済産業省、観光庁、スポーツ庁、独立行政法人日本スポーツ振興センター、全国市長会、全国町村会、公益財団法人日本オリンピック委員会、公益財団法人日本スポーツ協会、公益財団法人日本パラスポーツ協会日本パラリンピック委員会、公益財団法人日本レクリエーション協会、公益財団法人健康・体力づくり事業財団、健康日本21推進全国連絡協議会、公益社団法人全国スポーツ推進委員連合、公益社団法人日本青年会議所、公益財団法人スポーツ安全協会、一般社団法人アスリートネットワーク、特定非営利活動法人日本オリンピック協会、一般社団法人日本パラリンピアンズ協会、一般社団法人日本女子サッカーリーグ、一般社団法人世界ゆるスポーツ協会、公益財団法人日本ゲートボール連合、公益財団法人ブルーシー・アンド・グリーンランド財団、公益財団法人マリンスポーツ財団、特定非営利活動法人日本ワールドゲームズ協会、公益財団法人ワールドマスターズゲームズ2021関西組織委員会

【特別協賛】公益財団法人日本財団 【協力】ミズノ株式会社

都道府県名	自治体名	実施回数	人口	参加者数	参加率	メダル
北海道	愛別町	12	2,612	1,318	50.5	銀
	芦別市	10	12,430	4,611	37.1	銀
	枝幸町	7	7,639	3,435	45.0	銀
	剣淵町	6	2,950	1,302	44.1	銀
	士別市	5	17,676	5,336	30.2	銅
	新得町	12	5,668	3,748	66.1	金
	苫前町	20	2,888	1,202	41.6	銀
	名寄市	29	26,663	9,804	36.8	銀
	東神楽町	11	10,110	6,070	60.0	金
	芽室町	13	18,181	6,996	38.5	銀
	湧別町	6	8,314	5,150	61.9	金
青森県	田子町	9	5,145	3,609	70.1	金
	藤崎町	14	14,704	10,546	71.7	金
岩手県	軽米町	17	8,552	4,643	54.3	銀
	葛巻町	28	5,744	4,492	78.2	金
	陸前高田市	23	18,337	5,378	29.3	銅
宮城県	角田市	2	27,770	6,124	22.1	銅
秋田県	井川町	12	4,504	3,271	72.6	金
	大湯村	8	3,070	1,027	33.5	銅
	大館市	10	69,181	42,814	61.9	金
	男鹿市	11	25,539	14,972	58.6	金
	潟上市	10	32,164	5,623	17.5	銅
	鹿角市	10	29,169	6,603	22.6	銅
	上小阿仁村	9	2,113	1,106	52.3	銀
	北秋田市	9	30,112	17,933	59.6	金
	小坂町	12	4,794	2,955	61.6	銀
	にかほ市	16	23,490	8,701	37.0	銀
	八郎潟町	9	5,491	3,588	65.3	金
	八峰町	8	6,693	3,949	59.0	銀
	藤里町	9	3,002	2,207	73.5	金
	美郷町	10	18,549	9,102	49.1	銀
	三種町	10	15,353	5,671	36.9	銀
	由利本荘市	10	73,941	16,704	22.6	銅
	横手市	10	85,809	72,139	84.1	金

都道府県名	自治体名	実施回数	人口	参加者数	参加率	メダル
山形県	中山町	6	10,897	5,205	47.8	銀
	米沢市	7	78,118	22,660	29.0	銀
福島県	伊達市	10	58,320	12,216	20.9	銅
茨城県	常陸太田市	14	49,245	25,792	52.4	金
群馬県	上野村	4	1,138	1,076	94.6	金
	南牧村	5	1,636	691	42.2	銀
	吉岡町	1	22,111	4,849	21.9	銅
神奈川県	秦野市	6	161,949	51,083	31.5	銀
	松田町	9	10,613	1,558	14.7	銅
山梨県	南部町	9	7,240	4,906	67.8	金
	富士吉田市	4	47,741	21,811	45.7	銀
長野県	東御市	9	29,677	13,844	46.6	銀
岐阜県	関市	6	86,268	49,464	57.3	金
	羽島市	11	67,107	29,168	43.5	銀
愛知県	扶桑町	8	34,984	10,114	28.9	銅
	碧南市	12	72,704	51,917	71.4	金
	みよし市	3	61,245	12,412	20.3	銅
京都府	京丹後市	4	52,845	30,499	57.7	金
	福知山市	4	76,548	35,061	45.8	銀
和歌山県	上富田町	17	15,684	6,928	44.2	銀
島根県	海士町	19	2,223	1,165	52.4	銀
	雲南市	17	36,734	15,029	40.9	銀
岡山県	赤磐市	13	43,602	12,099	27.7	銅
	新庄村	17	873	670	76.7	金
広島県	北広島町	10	17,791	8,373	47.1	銀
徳島県	三次市	9	50,398	3,065	6.1	銅
	鳴門市	13	55,460	33,552	60.5	金
香川県	三好市	16	24,115	4,032	16.7	銅
	丸亀市	15	112,302	65,075	57.9	金
福岡県	大牟田市	17	110,247	74,871	67.9	金
佐賀県	神埼市	13	30,891	18,124	58.7	金
長崎県	大村市	15	97,824	60,144	61.5	金
熊本県	長洲町	2	15,601	4,122	26.4	銅
	山江村	10	3,344	2,020	60.4	銀

チャレンジデー 2022 対戦組合せ・結果表

【チャレンジデーメダル授与基準表】

カテゴリー	人口	金メダル	銀メダル	銅メダル
1	6,000 人未満	65% 以上	40% ~ 65% 未満	40% 未満
2	6,000 人~ 15,000 人未満	60% 以上	36% ~ 60% 未満	36% 未満
3	15,000 人~ 35,000 人未満	55% 以上	32% ~ 55% 未満	32% 未満
4	35,000 人~ 75,000 人未満	51% 以上	28% ~ 51% 未満	28% 未満
5	75,000 人~ 160,000 人未満	47% 以上	24% ~ 47% 未満	24% 未満
6	160,000 人以上	43% 以上	20% ~ 43% 未満	20% 未満

カテゴリー 1 (人口: 6,000 人未満)

北海道 		秋田県 	
愛別町 あいべつちょう		小坂町 こさかまち	
実施回数	12 回目	実施回数	12 回目
人口	2,612 人	人口	4,794 人
参加者	1,318 人	参加者	2,955 人
参加率	50.5%	参加率	61.6%

北海道 		群馬県 	
剣淵町 けんぶちちょう		南牧村 なんもくむら	
実施回数	6 回目	実施回数	5 回目
人口	2,950 人	人口	1,636 人
参加者	1,302 人	参加者	691 人
参加率	44.1%	参加率	42.2%

北海道 		秋田県 	
苫前町 とままえちょう		大潟村 おおがたむら	
実施回数	20 回目	実施回数	8 回目
人口	2,888 人	人口	3,070 人
参加者	1,202 人	参加者	1,027 人
参加率	41.6%	参加率	33.5%

北海道 		島根県 	
新得町 しんとくちょう		海士町 あまちょう	
実施回数	12 回目	実施回数	19 回目
人口	5,668 人	人口	2,223 人
参加者	3,748 人	参加者	1,165 人
参加率	66.1%	参加率	52.4%

青森県 		秋田県 	
田子町 たっこまち		井川町 いかわまち	
実施回数	9 回目	実施回数	12 回目
人口	5,145 人	人口	4,504 人
参加者	3,609 人	参加者	3,271 人
参加率	70.1%	参加率	72.6%

秋田県 		群馬県 	
藤里町 ふじさとまち		上野村 うえのむら	
実施回数	9 回目	実施回数	4 回目
人口	3,002 人	人口	1,138 人
参加者	2,207 人	参加者	1,076 人
参加率	73.5%	参加率	94.6%

岩手県 		岡山県 		熊本県 	
葛巻町 くずまきまち		新庄村 しんじょうそん		山江村 やまえむら	
実施回数	28 回目	実施回数	17 回目	実施回数	10 回目
人口	5,744 人	人口	873 人	人口	3,344 人
参加者	4,492 人	参加者	670 人	参加者	2,020 人
参加率	78.2%	参加率	76.7%	参加率	60.4%

■ カテゴリー 2 (6,000人～15,000人未満)

北海道		山形県		
芦別市		中山町		
あしべつし		なかやままち		
実施回数	10 回目	VS	実施回数	6 回目
人 口	12,430 人		人 口	10,897 人
参加者	4,611 人		参加者	5,205 人
参加率	37.1%		参加率	47.8%

北海道		山梨県		
東神楽町		南部町		
ひがしかぐらちょう		なんぶちょう		
実施回数	11 回目	VS	実施回数	9 回目
人 口	10,110 人		人 口	7,240 人
参加者	6,070 人		参加者	4,906 人
参加率	60.0%		参加率	67.8%

北海道			秋田県	
湧別町			八峰町	
ゆうべつちょう			はっほうちょう	
実施回数	6 回目	VS	実施回数	8 回目
人 口	8,314 人		人 口	6,693 人
参加者	5,150 人		参加者	3,949 人
参加率	61.9%		参加率	59.0%

北海道		青森県			岩手県		
枝幸町		藤崎町			軽米町		
えさしちょう		ふじさきまち			かるまいまち		
実施回数	7 回目	VS	実施回数	14 回目	VS	実施回数	17 回目
人 口	7,639 人		人 口	14,704 人		人 口	8,552 人
参加者	3,435 人		参加者	10,546 人		参加者	4,643 人
参加率	45.0%		参加率	71.7%		参加率	54.3%

【 カテゴリー 3 (15,000 人～ 35,000 人未満) 】

北海道 	長野県 
士別市 しべつし	東御市 とうみし
実施回数 5 回目	実施回数 9 回目
人口 17,676 人	人口 29,677 人
参加者 5,336 人	参加者 13,844 人
参加率 30.2%	参加率 46.6%

北海道 	秋田県 
名寄市 なよろし	男鹿市 おがし
実施回数 29 回目	実施回数 11 回目
人口 26,663 人	人口 25,539 人
参加者 9,804 人	参加者 14,972 人
参加率 36.8%	参加率 58.6%

北海道 	秋田県 
芽室町 めむろちょう	三種町 みたねちょう
実施回数 13 回目	実施回数 10 回目
人口 18,181 人	人口 15,353 人
参加者 6,996 人	参加者 5,671 人
参加率 38.5%	参加率 36.9%

岩手県 	和歌山県 
陸前高田市 りくぜんたかたし	上富田町 かみとんだちょう
実施回数 23 回目	実施回数 17 回目
人口 18,337 人	人口 15,684 人
参加者 5,378 人	参加者 6,928 人
参加率 29.3%	参加率 44.2%

宮城県 	愛知県 
角田市 かくだし	扶桑町 ふそうちょう
実施回数 2 回目	実施回数 8 回目
人口 27,770 人	人口 34,984 人
参加者 6,124 人	参加者 10,114 人
参加率 22.1%	参加率 28.9%

秋田県 	群馬県 
鹿角市 かづのし	吉岡町 よしおかまち
実施回数 10 回目	実施回数 1 回目
人口 29,169 人	人口 22,111 人
参加者 6,603 人	参加者 4,849 人
参加率 22.6%	参加率 21.9%

秋田県 	佐賀県 
北秋田市 きたあきたし	神埼市 かんざきし
実施回数 9 回目	実施回数 13 回目
人口 30,112 人	人口 30,891 人
参加者 17,933 人	参加者 18,124 人
参加率 59.6%	参加率 58.7%

秋田県 	広島県 
美郷町 みさとちょう	北広島町 きたひろしまちょう
実施回数 10 回目	実施回数 10 回目
人口 18,549 人	人口 17,791 人
参加者 9,102 人	参加者 8,373 人
参加率 49.1%	参加率 47.1%

カテゴリー 4 (35,000 人～ 75,000 人未満)

福島県 	岡山県 
伊達市 だてし	赤磐市 あかいわし
実施回数 10 回目	実施回数 13 回目
人口 58,320 人	人口 43,602 人
参加者 12,216 人	参加者 12,099 人
参加率 20.9%	参加率 27.7%

山梨県 	徳島県 
富士吉田市 ふじよしだし	鳴門市 なるとし
実施回数 4 回目	実施回数 13 回目
人口 47,741 人	人口 55,460 人
参加者 21,811 人	参加者 33,552 人
参加率 45.7%	参加率 60.5%

岐阜県 	京都府 
羽島市 はしまし	京丹後市 きょうたんごし
実施回数 11 回目	実施回数 4 回目
人口 67,107 人	人口 52,845 人
参加者 29,168 人	参加者 30,499 人
参加率 43.5%	参加率 57.7%

愛知県 	島根県 
みよし市 みよし	雲南市 うんなんし
実施回数 3 回目	実施回数 17 回目
人口 61,245 人	人口 36,734 人
参加者 12,412 人	参加者 15,029 人
参加率 20.3%	参加率 40.9%

茨城県 	愛知県 	秋田県 
常陸太田市 ひたちおおたし	碧南市 へぎなんし	大館市 おおだてし
実施回数 14 回目	実施回数 12 回目	実施回数 10 回目
人口 49,245 人	人口 72,704 人	人口 69,181 人
参加者 25,792 人	参加者 51,917 人	参加者 42,814 人
参加率 52.4%	参加率 71.4%	参加率 61.9%

カテゴリー 5 (75,000 人～ 160,000 人未満)

香川県 	岐阜県 
丸亀市 まるがめし	関市 せきし
実施回数 15 回目	実施回数 6 回目
人口 112,302 人	人口 86,268 人
参加者 65,075 人	参加者 49,464 人
参加率 57.9%	参加率 57.3%

福岡県 	京都府 
大牟田市 おおむたし	福知山市 ふくちやまし
実施回数 17 回目	実施回数 4 回目
人口 110,247 人	人口 76,548 人
参加者 74,871 人	参加者 35,061 人
参加率 67.9%	参加率 45.8%

秋田県 	長崎県 	山形県 
横手市 よこてし	大村市 おおむらし	米沢市 よねざわし
実施回数 10 回目	実施回数 15 回目	実施回数 7 回目
人口 85,809 人	人口 97,824 人	人口 78,118 人
参加者 72,139 人	参加者 60,144 人	参加者 22,660 人
参加率 84.1%	参加率 61.5%	参加率 29.0%

オープン参加

秋田県



上小阿仁村

かみこあにむら

実施回数	9 回目
人 口	2,113 人
参加者	1,106 人
参加率	52.3%

秋田県



八郎潟町

はちろうがたまち

実施回数	9 回目
人 口	5,491 人
参加者	3,588 人
参加率	65.3%

神奈川県



松田町

まつだまち

実施回数	9 回目
人 口	10,613 人
参加者	1,558 人
参加率	14.7%

熊本県



長洲町

ながすまち

実施回数	2 回目
人 口	15,601 人
参加者	4,122 人
参加率	26.4%

秋田県



にかほ市

にかほし

実施回数	16 回目
人 口	23,490 人
参加者	8,701 人
参加率	37.0%

徳島県



三好市

みよし

実施回数	16 回目
人 口	24,115 人
参加者	4,032 人
参加率	16.7%

秋田県



潟上市

かたがみし

実施回数	10 回目
人 口	32,164 人
参加者	5,623 人
参加率	17.5%

広島県



三次市

みよし

実施回数	9 回目
人 口	50,398 人
参加者	3,065 人
参加率	6.1%

秋田県



由利本荘市

ゆりほんじょうし

実施回数	10 回目
人 口	73,941 人
参加者	16,704 人
参加率	22.6%

神奈川県



秦野市

はだのし

実施回数	6 回目
人 口	161,949 人
参加者	51,083 人
参加率	31.5%

全国共通イベント

全国のチャレンジデー参加者同士の交流や、チャレンジデーをよりいっそう盛り上げることを目的とし、チャレンジデー当日に各自治体の住民等が共通のルールにより参加できる全国共通イベントを推奨しています。

【内容決定までの経緯】

新型コロナウイルス感染症の拡大は、チャレンジデーにも大きな影響を及ぼしました。チャレンジデー 2020は開催中止、チャレンジデー 2021はオンラインでの共通イベント実施など、従来の形でのチャレンジデー開催が叶いませんでした。

30周年の節目の年にあたるチャレンジデー 2022では、参加自治体の皆様と共に全国共通イベントを作っていこうという想いのもと、投票による実施種目の決定という新たな取り組みを行いました。チャレンジデー本部が、感染症対策を講じることができる候補種目6種目を選定し、参加自治体の投票により、上位3種目を実施種目として決定いたしました。今回採用した3種目はチャレンジデー 2023でも全国共通イベントとして実施を予定しています。

【決定種目】

- ・バスケットボール入れ
- ・チームふらば～るボール ライト
- ・ビニール傘玉入れ

投票時に各自治体から頂いたご意見を踏まえ、「チームふらば～るボール ライト」と「ビニール傘玉入れ」のルール解説動画をYouTubeで配信いたしました。

【ルール解説動画について】

ルール解説動画は、脚本～撮影～編集～監修まですべて笹川スポーツ財団のチャレンジデー本部が行いました。笹川スポーツ財団のホームページにアーカイブ動画が公開されています。自治体のスポーツイベントなどの参考にしてください。

<https://www.ssf.or.jp/dotank/challengeday/event.html>



ルール解説動画より抜粋

【ルール紹介】

① バスケットボール入れ

- (1)内 容 バスケットゴールにボールを入れた回数を競います。
- (2)競 技 者 1チーム5人
- (3)用 具 ・バスケットゴール×1個(ミニバス用ゴールでも可)
・バスケットボール×最大5個
- (4)ル ー ル ・練習時間5分、競技時間10分の計15分のプログラムです。
・競技時間内に1つのゴールにチームで何回ボールが入るかを競います。
・連続で決めても追加の得点は発生しません。
・バスケットボールのコート内であればどこから投げても構いません。
・投げ方の指定はありません。(上手投げ、下手投げ、レイアップ、ダンクシュートなど、自由に投げてください)
・チームメンバー以外が球拾いや球出し等で補助することはできません。
- (5)カウント方法 ・スリーポイントラインよりも遠い位置からゴールに投げ入れた場合、3点としてカウントします。(それ以外は1点としてカウントします。)
例：3ポイントシュート×4回+通常シュート×10回=22点
・得点は2人以上の運営スタッフでカウントしてください。

② チームふらば～るボール ライト

- (1)内 容 4人が4メートル離れて四角形を作り、ボールをワンバウンドパスして、制限時間内に全員が同時にキャッチに成功した合計回数を競います
- (2)競 技 者 1チーム4人
- (3)用 具 ・ソフトバレーボール×2個(円周64cm)
・バレーボール×2個(5号球)
※上記以外のボールは使用できません。
- (4)ル ー ル ・練習時間5分、競技時間10分の計15分のプログラムです。
(競技の流れ)
1. 4人がそれぞれ4m離れて四角形を作り、ボールを全員が持ってください。
2. 運営スタッフの合図で、チーム代表者が「せーの」の掛け声をかけ、全員が一斉にボールを投げてください。
→ ボールを反時計回りに、両手アンダースローでワンバウンドさせてください。
→ 掛け声は必須ではありませんが、全員の動作が合わせやすくなるため、おすすめです。
3. ワンバウンドしたボールをキャッチしてください。
4. 5分経過したら、運営スタッフが「逆回転」のコールをするので、時計回りのスロー&キャッチでボールを投げてください。
・10分間で、4人全員が同時キャッチを成功させた回数をカウント。1人でもキャッチできないときは回数としてカウントできません。
・キャッチの際、仲間に近づくなど位置を移動しても大丈夫ですが、スローの際は相手と必ず4m以上離れてください。
- (5)カウント方法 ・競技時間に4人全員が同時キャッチを成功できた回数をカウントしてください。
・2人以上の運営スタッフが回数をカウントしてください。
・ノーバウンドでボールをキャッチした場合はカウントできません。

※本競技のルールは、公益財団法人日本レクリエーション協会のホームページに掲載されている『チームふらば～るボール』のルールに準拠して作成しています。



③ビニール傘玉入れ

(1)内 容 ビニール傘を逆さまにし玉入れの籠にして、新聞紙を丸めた玉を使って玉入れをし、所定の玉を入れた時間を競います。

(2)競 技 者 1チーム5人(受け手となる1人を含む)

(3)用 具

- ・ビニール傘(サイズの表記が70cm以内のもの)
- ・新聞紙
- ・タイマー

(4)ル ー ル

- ・作戦タイム5分、競技時間10分の計15分のプログラムです。

(競技の流れ)

1. 見開き30枚の新聞紙を準備してください。
 - ・新聞紙見開き1枚につき玉1つを作成してください。
2. 新聞紙を丸めて玉を作る～玉を傘めがけて投げる～外れた玉を拾いに行く、までが一連の流れです。
 - ・新聞紙を丸めて玉を作る行為、外れた玉を拾う行為もチーム内で行ってください。
 - ・投げ手と受け手は5m離れてください。
 - ・受け手は5mのライン上を移動することは可能です。
 - ・チームメンバーであれば、何人で玉を投げて構いません。
 - ・チームメンバーであれば、玉拾いのみを行う担当を置いて構いません。その際に場所の指定はありません。
 - ・競技時間中に、傘に溜まった玉を傘から降ろしても構いませんが、傘を外れた玉との区別ができるように注意してください。

(5)カウント方法

- ・運営スタッフのスタートの合図で時間のカウントがスタートします。作戦タイム後は速やかに競技を開始できる場所に移動してください。
- ・30個すべての玉(新聞紙)が傘に入るまでの所要時間が記録となります。



【結果一覧】

■バスケットボール入れ（参加チーム数：25チーム）

順位	都道府県	自治体名	チーム名	シュート種類	成功回数	合計点数	合計点数
1	群馬県	吉岡町	指導者	①3ポイント (3点)	43	129	556
				②通常 (1点)	427	427	
2	秋田県	横手市	横手市立 平鹿中学校チーム	①3ポイント (3点)	23	69	427
				②通常 (1点)	358	358	
3	秋田県	横手市	横手市立 十文字小学校チーム	①3ポイント (3点)	18	54	414
				②通常 (1点)	360	360	

■チームふらば～るボールライト（参加チーム数：20チーム）

順位	都道府県	自治体名	チーム名	成功回数
1	福島県	伊達市	チーム おとうみ	160
2	福島県	伊達市	みんなのひろば チーム なつみ	155
3	福島県	伊達市	みんなのひろば チーム だいすけ	148

■ビニール傘玉入れ（参加チーム数：25チーム）

順位	都道府県	自治体名	チーム名	記録
1	愛知県	扶桑町	70th anniversary's	0分52秒
2	愛知県	扶桑町	へべれけ	0分58秒
3	愛知県	扶桑町	かわたつた	1分00秒
			1/318 継続率93% (みどる すべっく)	1分00秒

【イベント風景】



バスケットボール入れ



チームふらば～るボールライト



ビニール傘玉入れ



おうちチャレンジデー 2022 実施報告

チャレンジデー 2022では、新型コロナウイルス感染症対策を講じたプログラムとして、ミズノ株式会社の協力のもと、個人または家族でできる動画プログラムを提供しました。

①ながら運動SP

- (1)目の疲れ解消編
- (2)腰痛解消編

②アスリートと一緒にうちチャレ

- (1)加地 亮氏(サッカー元日本代表)
- (2)谷本 歩実氏(柔道元日本代表)

③ミズノ流忍者学校【オンライン】

プログラム内容の特性上、「ながら運動SP」と「アスリートと一緒にうちチャレ」は、事前に案内したURLから誰でも参加可能な形式(事前予約不要)、「ミズノ流忍者学校【オンライン】」は、事前予約制として実施しました。

①ながら運動SP ～目の疲れ解消編～、～腰痛解消編～

- 【参加方法】** YouTubeにて配信された動画を見ながら運動
- 【時間】** 各編 30分
- 【必要なもの】** スマートフォンやタブレット、パソコン
- 【内容】** 普段の生活のワンシーンで、「〇〇しながら」ムリなく楽しく、目の疲れ、腰痛の悩みにアプローチできる内容です。
- 【特徴】**
- ①テレワークでの運動不足解消、コロナ禍での運動不足の解消ができます。
 - ②年齢や運動経験に関係なく参加できます。
 - ③家や職場など、普段の何気ない生活のワンシーンで運動できます。

(1)目の疲れ解消編



(2)腰痛解消編



②アスリートと一緒にうちチャレ <加地 亮氏(サッカー元日本代表)>

【プロフィール】 1980年1月生まれ、兵庫県南あわじ市出身。ガンバ大阪・FC東京・メジャーリーグサッカー・チーヴァスUSAなどで活躍。ワールドカップドイツ大会に出場。

【参加方法】 YouTubeにて配信された動画を見ながら一緒に運動

【必要なもの】 椅子

【テーマ】 「猫背解消！ストレッチ&トレーニング」

【内容】 サッカーの動きも交えた、首、肩、腹筋など上半身のストレッチとトレーニングをご紹介します。



②アスリートと一緒にうちチャレ <谷本 歩実氏(柔道元日本代表)>

【プロフィール】 1981年8月生まれ、愛知県出身。2004年アテネオリンピック、2008年北京オリンピックで柔道オリンピック史上初のオール一本勝ちで2連覇を果たす。現在は日本オリンピック委員会理事も務める。

【参加方法】 YouTubeにて配信された動画を見ながら一緒に運動

【必要なもの】 マット

【テーマ】 「全身を使って、姿勢をリセット！」

【内容】 オリンピック連覇中も実際にやっていた、立ち姿勢と寝姿勢で肩回りや腹筋に効果的なエクササイズをご紹介します。



③ミズノ流忍者学校【オンライン】

【対象】 チャレンジデー実施自治体の親子・子供向け

【参加方法】 事前予約→Zoomで開催

【必要なもの】 スマートフォンやタブレット、パソコン

【時間】 45分

【内容】 心も体も忍者になりきって、さまざまな修行に挑戦！綱渡りの術や手裏剣の術などを習得することで楽しくあそびながら運動の動作を身につけることができます。

- 【特徴】**
- ① 自宅から気軽に参加できる、運動あそびプログラム。
 - ② ライブ配信で講師とのやりとりができるプログラム。
 - ③ ZOOMでの開催となりますので、どこからでも受講が可能です。



チャレンジデー 2022 アワード

チャレンジデー大賞

全実施自治体の中で、
最も参加率の高かった自治体に贈られる賞

群馬県 上野村 94.6%

(参加者数 1,076人 / 人口 1,138人)

各集会所、小中学校、町内の公共施設等にて、多くのプログラムを実施すると共に、村内事業所への参加依頼に力を入れ、村外から勤務している方も含めて周知をした結果、多くの参加者を集めました。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、YouTubeや村内ケーブルテレビを活用し、体操番組等を放送するプログラムを試みた結果、参加率94.6%という結果を収め、2年連続の大賞を受賞しました。

新人賞

初実施自治体の中で、
最も参加率の高かった自治体に贈られる賞

群馬県 吉岡町 21.9%

(参加者数 4,849人 / 人口 22,111人)

例年、別日に開催していた各種スポーツイベントをチャレンジデーに合わせて実施し、イベントによっては、町外の住民も参加できるようにしたことで、参加者の獲得だけでなく、新たな交流が生まれました。また、中学校における全校長縄チャレンジでは、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、学年毎に体育館・校庭に分散し実施するなど、各所で初参加とは思えない工夫がみられました。こうした取り組みの結果、4,849人の参加を集め、見事、新人賞を受賞しました。

参加率アップ賞

2021年度と比較して
最も参加率の上がった自治体に贈られる賞

秋田県 横手市 84.0ポイントアップ

2021年 0.1% → 2022年 84.1%

SNSを活用した積極的な告知をすると共に、市内11カ所のすべての体育館や公民館でイベントを実施しました。プログラム内容も、新型コロナウイルス感染症の対策を講じながら、ヨガ、ラジオ体操等の気軽に取り組めるものを設定したほか、全国共通イベントである「バスケットボール入れ」を地元プロチームや小中学生、市長が参加するかたちで企画・実施した結果、参加率84.0ポイントアップとなり、見事、参加率アップ賞を受賞しました。



笹川スポーツ財団特別賞

チャレンジデーの普及促進に貢献し、住民のスポーツ参加を積極的に推進した自治体・団体に贈られる賞

北海道 苫前町

20回目の参加で、住民がチャレンジデーに漠然と参加することを防止したり、実施するプログラム内容が例年と同じで住民が退屈しないよう、過去の実施種目を詳細に分析したうえで、ウォーキングプログラムを設定しました。

設定したプログラムは、津波被害を想定したシェルター兼歩道を実施会場に設定することで、スポーツをしながら住民に確実に知ってもらいたい防災情報を伝える仕組みを作り上げました。「スポーツ」×「防災」の視点をチャレンジデーに導入した取り組みは、他自治体の参考になる好事例でした。



カテゴリー優秀賞

同カテゴリー内で参加率が最も高かった自治体に贈られる賞

カテゴリー 1	群馬県 上野村	94.6%
カテゴリー 2	青森県 藤崎町	71.7%
カテゴリー 3	秋田県 北秋田市	59.6%
カテゴリー 4	愛知県 碧南市	71.4%
カテゴリー 5	秋田県 横手市	84.1%

※カテゴリー 6は対象自治体なし（オープン参加のため）



ベストPR賞

全実施自治体の中で、最も多く報道機関に取り上げられた自治体に贈られる賞

北海道 士別市 10件

チャレンジデーまでの1週間、複数の地元紙において、メインプログラムの開催案内や参加報告者へのプレゼント企画など、メディアを活用した周知・啓発に加え、首長同士によるエール交換の様もメディア取材と記事掲載に繋げ、結果的に10件の掲載となりました。



広報アイデア賞

チャレンジデーを広く周知するために、ユニークな広報活動を実施した自治体に贈られる賞

山形県 中山町

テレビCMや複数の番組内での告知コーナーを活用し、当日までに多くの住民にチャレンジデーの実施を印象付けました。

具体的なプログラム内容を紹介することにより、当日の参加が気軽にできるような雰囲気づくりを行いました。

また、生命保険会社との連携協定において、チラシの配布や健康チェックプログラムを展開するなど、外部の組織・団体と協力しての広報活動や、住民が興味を持ちやすいプログラム実施は非常に良いアイデアでした。

チャレンジデー2022

Ⅲ. 自治体別の実施報告 (68自治体)



「スポーツで元気なまちづくり」

チャレンジデー 2022 実施自治体の傾向分析

チャレンジデー 2022も昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染対策と並行しての実施となりました。こうした状況のなか、チャレンジデーにおける自治体の取組みについて一部自治体を実施したヒアリング結果を紹介いたします。またチャレンジデー 2022実施自治体のチャレンジデーにおける取組みや日頃のスポーツ振興政策に関するアンケートを実施し、全体の結果に加えて獲得メダル別に集計しました。こうしたデータを来年以降のチャレンジデーをはじめとした、自治体での取組みに活かしていただければ幸いです。

【チャレンジデー 2022実施自治体へのヒアリング】

参加率の増減に関わらず、2022年は多くの自治体で想定どおりのプログラム実施ができていました。プログラム内容も、個人を対象としたものから、感染対策を講じることが可能なチーム種目まで幅広く開催された様子が見えられました。一方、コロナ前やコロナ禍と比較して参加率が増加した自治体は、感染対策をしながらも多様なプログラムを実施しており、コロナ前に実施していたプログラムの開催の実施可否が、参加率に影響した可能性が垣間見えました。またコロナ禍に関わらず、新たな取組みを試みている自治体も多くありました。

		参加率が2019や2021と比べて増加した自治体(一部抽出)	参加率が2019や2021と比べて減少した自治体(一部抽出)
Q1	期待どおりに実施できたプログラムについて	全自治体ですべて実施できた。 ＜実施できたプログラム例＞ 全国共通イベントの「バスケットボール入れ」、体育館一般開放、レクリエーション体操教室、ラジオ体操、赤ちゃんと一緒にエクササイズ、ケーブルテレビでストレッチ体操の放送 など	多くの自治体で実施できた。 ＜実施できたプログラム例＞ ポッチャ体験会、スポーツ吹き矢、モルック、ラダーゲッター、町長とラジオ体操、ビニール傘玉入れ、モーニングウォーク など
Q2	期待どおりに実施できなかったプログラムについて	全自治体において特になし。	一部自治体であり。 ＜期待どおりに実施できなかったプログラム例＞ 全町一斉ラジオ体操 など
Q3	コロナ前(2019年以前)から継続して実施しているプログラムについて	全自治体で継続しているプログラムあり。 ＜コロナ禍でも実施できたプログラム例＞ グラウンド・ゴルフ大会、ニューススポーツ体験(ユニカール、スマイルボウリング等)、体育館一般開放、室内グラウンド・ゴルフ交流会、レクリエーション体操教室 など	多くの自治体で継続しているプログラムあり。 ＜コロナ禍でも実施できたプログラム例＞ スポーツ吹き矢、ポッチャ、ラダーゲッター、モルック、グラウンド・ゴルフ、ウォーキング、きんにやもにゃ踊り、シャッフルボード、町長とラジオ体操、モーニングウォーク など
Q4	コロナ禍で実施できなかったプログラムについて	全自治体において特になし。	全自治体であり。 ＜コロナ禍で実施できなかったプログラム例＞ 全町一斉ラジオ体操、ミニバレー体験会、大型店舗でのイベント、ファイナルイベント など
Q5	コロナ禍ならではの新たな取組みについて	一部自治体であり。 ＜コロナ禍ならではの新たな取組み例＞ ケーブルテレビを通じたストレッチ体操の放送	一部自治体であり。 ＜コロナ禍ならではの新たな取組み例＞ チラシを通じた簡単なストレッチ紹介、動画配信、広報無線でラジオ体操の放送 など
Q6	コロナ禍とは関係ない新たな取組みについて	一部自治体であり。 ＜コロナ禍とは関係ない新たな取組み例＞ 企業との協力で実施した健康チェック(血管年齢測定・ベジチェック)	一部自治体であり。 ＜コロナ禍とは関係ない新たな取組み例＞ 地元の踊りを町内放送で放映、鉄道沿線を会場とした親子向けウォーキングイベントの開催 など

【チャレンジデー実施自治体における統計データ】

チャレンジデー 2022 実施自治体に実施したアンケート結果を紹介します。全体の結果に加えて、メダル別の集計も行っています。メダルの獲得基準は以下を参照ください。

(参考) チャレンジデーメダル授与基準表

カテゴリー	人口	金メダル	銀メダル	銅メダル
1	6,000人未満	65%以上	40%以上65%未満	40%未満
2	6,000～15,000人未満	60%以上	36%以上60%未満	36%未満
3	15,000～35,000人未満	55%以上	32%以上55%未満	32%未満
4	35,000～75,000人未満	51%以上	28%以上51%未満	28%未満
5	75,000～160,000人未満	47%以上	24%以上47%未満	24%未満
6	160,000人以上	43%以上	20%以上43%未満	20%未満

●カテゴリー別獲得メダル自治体数

	金メダル	銀メダル	銅メダル	計
カテゴリー1	8	8	1	17
カテゴリー2	4	5	1	10
カテゴリー3	3	8	9	20
カテゴリー4	5	3	5	13
カテゴリー5	5	2	0	7
カテゴリー6	0	1	0	1
計	25	27	16	

●住民への周知のために活用した広報ツール

参加率が高い自治体ほど、生活に密着した広報ツールを活用している

チラシ配布が86.8%と最も多く、自治体広報誌（開催前告知）80.9%、自治体広報誌（開催報告）76.5%と続く。印刷物の活用に加えてウェブサイト（70.6%）を含めた自治体を持つツールを活用した自治体が7割以上でした。獲得メダル別にみると、金メダル群はチラシ配布92.0%、銀メダル群は自治体広報誌（開催報告）85.2%、銅メダル群は自治体広報誌（開催前告知）100.0%が最も多く活用しているツールという結果でした。さらに金メダル群は、防災行政無線を活用している割合が64.0%と、銀メダル群40.7%、銅メダル群37.5%と比べて活用していたことから、生活に密着したツールの活用が有効である可能性がうかがえます。

また1自治体あたりの活用数は、全体平均6.6個で、メダルによって差はみられませんでした。

	全体 (n=68)	金メダル群 (n=25)	銀メダル群 (n=27)	銅メダル群 (n=16)
チラシ配布	86.8%	92.0%	81.5%	87.5%
自治体広報誌（開催前告知）	80.9%	72.0%	77.8%	100.0%
自治体広報誌（開催報告）	76.5%	72.0%	85.2%	68.8%
ウェブサイト	70.6%	76.0%	59.3%	81.3%
メディア関係者への依頼	48.5%	48.0%	40.7%	62.5%
プレスリリース（開催前告知）	47.1%	40.0%	48.1%	56.3%
新聞折り込み	32.4%	36.0%	40.7%	12.5%
防災行政無線	48.5%	64.0%	40.7%	37.5%
地元ケーブルテレビのCM	22.1%	16.0%	22.2%	31.3%
地元コミュニティFMのCM	14.7%	24.0%	11.1%	6.3%
地元情報誌（フリーペーパー）	1.5%	4.0%	0.0%	0.0%
Facebook	42.6%	32.0%	59.3%	31.3%
Twitter	13.2%	8.0%	14.8%	18.8%
Instagram	8.8%	12.0%	11.1%	0.0%
LINE（自治体アカウント）	25.0%	12.0%	37.0%	25.0%
ブログ	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

	全体 (n=68)	金メダル群 (n=25)	銀メダル群 (n=27)	銅メダル群 (n=16)
1自治体あたりの平均活用数（個）	6.6	6.5	6.7	6.5

●参加報告受付ツール

参加率が高い自治体ほど、多様なツールを活用している

電話およびFAXが94.1%と最も多く、窓口88.2%、回収BOX63.2%と続きます。またメール57.4%、QRコード35.3%といったWEBの活用もみられました。獲得メダル別で見ると、トップ3で違いはありませんが、金メダル群では銀メダル群や銅メダル群に比べて、ウェブサイト（報告フォーム）やLINE（自治体アカウント）は利用せず、窓口やメール、QRコード、ウェブサイト（電子申請）を利用する割合が高い傾向がありました。対面と非接触の報告方法を準備し、さまざまな人が報告しやすいよう工夫していた様子が見えます。

また1自治体あたりの活用数は、金メダル群が5.2個と、銀メダル群4.8個、銅メダル群4.5個に比べて多様なツールを活用していることも読み取れます。

	全体 (n=68)	金メダル群 (n=25)	銀メダル群 (n=27)	銅メダル群 (n=16)
電話	94.1%	96.0%	96.3%	87.5%
FAX	94.1%	96.0%	92.6%	93.8%
窓口	88.2%	100.0%	81.5%	81.3%
回収BOX	63.2%	60.0%	66.7%	62.5%
メール	57.4%	72.0%	44.4%	56.3%
QRコード	35.3%	48.0%	29.6%	25.0%
ウェブサイト(報告フォーム)	30.9%	0.0%	11.1%	18.8%
ウェブサイト(電子申請)	8.8%	40.0%	29.6%	18.8%
LINE(自治体アカウント)	8.8%	0.0%	18.5%	6.3%

	全体 (n=68)	金メダル群 (n=25)	銀メダル群 (n=27)	銅メダル群 (n=16)
1自治体あたりの平均活用数(個)	4.9	5.2	4.8	4.5

●自治体オリジナルで製作した備品・グッズ

参加率が高い自治体ほど、多くのグッズを製作している

チラシが85.3%と大部分を占め、ポスター29.4%、ポケットティッシュ20.6%と続きます。その他の回答では、シューズバック、ウェットティッシュ、トートバックなどがありました。獲得メダル別にみると、金メダル群はポスター（40.0%）、ポケットティッシュ（32.0%）を製作している割合が、銀メダル群（29.6%、11.1%）、銅メダル群（12.5%、18.8%）に比べて高い結果でした。

また1自治体あたりの平均製作個数は、全体平均2.5個でした。獲得メダル別にみると、金メダル群2.8個に対して、銅メダル群1.9個と参加率が高い自治体ほどより多くのグッズを製作している傾向が分かりました。

	全体 (n=68)	金メダル群 (n=25)	銀メダル群 (n=27)	銅メダル群 (n=16)
チラシ	85.3%	80.0%	88.9%	87.5%
ポスター	29.4%	40.0%	29.6%	12.5%
ポケットティッシュ	20.6%	32.0%	11.1%	18.8%
ソフトタックルバンド	1.5%	0.0%	3.7%	0.0%
Tシャツ	13.2%	20.0%	11.1%	6.3%
フェイスタオル	13.2%	20.0%	11.1%	6.3%
ポロシャツ	4.4%	4.0%	7.4%	0.0%
キャップ	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
のぼり	10.3%	12.0%	11.1%	6.3%
ポール	5.9%	8.0%	7.4%	0.0%
懸垂幕	5.9%	8.0%	3.7%	6.3%
看板	4.4%	0.0%	7.4%	6.3%
大型横断幕	4.4%	4.0%	3.7%	6.3%
横断幕	1.5%	0.0%	0.0%	6.3%
ミニのぼり(卓上)	1.5%	4.0%	0.0%	0.0%
ボールペン	2.9%	4.0%	3.7%	0.0%
缶バッジ	1.5%	4.0%	0.0%	0.0%
メモ帳	1.5%	4.0%	0.0%	0.0%
マグネット	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
運動紹介ビデオ(映像)	13.2%	8.0%	14.8%	18.8%
PRビデオ(映像)	7.4%	4.0%	11.1%	6.3%

	全体 (n=68)	金メダル群 (n=25)	銀メダル群 (n=27)	銅メダル群 (n=16)
1自治体あたりの平均製作数(個)	2.5	2.8	2.4	1.9

●自治体内の公共施設および学校の保有率とチャレンジデーにおける利用・協力割合

参加率が高い自治体ほど、スポーツ施設に限らず多様な公共施設をチャレンジデーで利用している

自治体内の公共施設の保有率をみていくと、体育館（98.5%）が最も多く、野球場・ソフトボール場（89.7%）、公民館（85.3%）と続きます。こうした保有施設のうち、チャレンジデーに利用している割合は、体育館（88.1%）、ゴルフ場（75.0%）、トレーニング場（74.4%）が多く利用されている結果でした。

獲得メダル別にみると、金メダル群では高齢者福祉施設（72.2%）や障害者施設（66.7%）、地域生活センター（50.0%）といった、運動・スポーツ以外の利用がメインの施設を利用している割合が、銀メダル群や銅メダル群に比べて多い結果でした。今後は、一見すると運動・スポーツの場ではない施設を活用していくことが、多くの住民の参加に繋がる可能性が示唆される結果でした。

また、1自治体あたりのチャレンジデーにおける平均利用施設種類数は、全体平均 8.7 種類でした。獲得メダル別にみると、金メダル群 8.8 種類に対して、銅メダル群 8.4 種類と、参加率の高い自治体ほどさまざまな公共施設をチャレンジデーにおいて利用していることが明らかとなりました。

さらに公立学校のチャレンジデーへの協力状況をみると、多くの自治体においてチャレンジデーへの協力を得られていることが分かりました。

		保有率 (n=68)	チャレンジデーにおける利用割合(利用自治体数/保有自治体数)							
			全体		金メダル群		銀メダル群		銅メダル群	
			n	%	n	%	n	%	n	%
屋内	体育館	98.5%	67	88.1%	25	88.0%	26	88.5%	16	87.5%
	トレーニング場	63.2%	43	74.4%	15	86.7%	17	64.7%	11	72.7%
	水泳プール	55.9%	38	50.0%	13	53.8%	16	37.5%	9	66.7%
	卓球場	14.7%	10	60.0%	2	100.0%	4	50.0%	4	50.0%
	公民館	85.3%	58	70.7%	23	73.9%	23	73.9%	12	58.3%
	高齢者福祉施設	66.2%	45	64.4%	18	72.2%	16	62.5%	11	54.5%
	障害者施設	42.6%	29	51.7%	12	66.7%	10	50.0%	7	28.6%
	児童福祉施設	44.1%	30	70.0%	13	69.2%	9	77.8%	8	62.5%
	地域生活支援センター	27.9%	19	36.8%	8	50.0%	6	16.7%	5	40.0%
屋外	多目的運動場広場	75.0%	51	56.9%	17	47.1%	20	55.0%	14	71.4%
	水泳プール(屋内)	51.5%	35	5.7%	13	0.0%	15	13.3%	7	0.0%
	庭球場	83.8%	57	40.4%	21	33.3%	22	45.5%	14	42.9%
	野球場・ソフトボール場	89.7%	61	52.5%	24	50.0%	22	59.1%	15	46.7%
	球技場	22.1%	15	33.3%	7	28.6%	5	40.0%	3	33.3%
	ゲートボール・クローケー場	44.1%	30	46.7%	9	22.2%	15	66.7%	6	33.3%
	ゴルフ場	29.4%	20	75.0%	8	62.5%	8	87.5%	4	75.0%
武道	公園(運動公園含む)	64.7%	44	61.4%	18	55.6%	17	64.7%	9	66.7%
	柔剣道場(武道場)	64.7%	44	70.5%	15	86.7%	17	58.8%	12	66.7%
	弓道場	39.7%	27	33.3%	11	27.3%	9	55.6%	7	14.3%
		保有率 (n=68)	チャレンジデーにおける協力割合(協力自治体数/保有自治体数)							
			全体		金メダル群		銀メダル群		銅メダル群	
			n	%	n	%	n	%	n	%
学校	公立小学校	100.0%	68	97.1%	25	100.0%	27	96.3%	16	93.8%
	公立中学校	100.0%	68	100.0%	25	100.0%	27	100.0%	16	100.0%
	公立高校	67.6%	46	87.0%	14	100.0%	21	85.7%	11	72.7%

		全体 (n=68)	金メダル群 (n=25)	銀メダル群 (n=27)	銅メダル群 (n=16)
1自治体あたりのチャレンジデーにおける平均利用施設種類数(種類)		8.7	8.8	8.7	8.4

※ 学校における協力数も含む

●地域スポーツ推進に関する計画等の策定状況

チャレンジデー 2022 実施自治体のうち、約半数となる 48.5%がスポーツ推進に関する計画を策定しています。また総合計画や教育計画などその他計画における、スポーツ推進の記載をしている自治体は、85.3%です。各計画内におけるチャレンジデーの記載有無をみると、地方スポーツ推進計画・その他計画のどちらにもチャレンジデーの記載がある自治体は 17.6%、どちらかに記載がある自治体は 33.8%、どちらにも記載のない自治体は 48.5%でした。

①地方スポーツ推進計画の有無(n=68)

	n	割合
計画あり	33	48.5%
計画なし	35	51.5%

②その他計画におけるスポーツ推進の記載有無(n=68)

	n	割合
記載あり	58	85.3%
記載なし	10	14.7%

③各計画内におけるチャレンジデーの記載有無(n=68)

	n	割合
いずれかの計画にチャレンジデーの記載あり	35	51.5%
①②ともに、 チャレンジデーの記載あり	12	17.6%
①にのみ チャレンジデーの記載あり	4	5.9%
②にのみ チャレンジデーの記載あり	19	27.9%
どの計画にもチャレンジデーの記載なし	33	48.5%

人口：2,612人
 参加者数：1,318人
 参加率：50.5%
 取得メダル：銀

北海道愛別町 ●
 VS
 秋田県小坂町 ○

主催

愛別町チャレンジデー実行委員会（会長 矢部福二郎）
 教育委員会社会教育係
 〒078-1493
 北海道上川郡愛別町字本町345番地1
 TEL：01658-6-5115 FAX：01658-6-4187

メディア

北海道新聞

広報・周知

Facebook / LINE (自治体アカウント) / 自治体広報誌 (開催前告知) / 自治体広報誌 (開催報告) / プレスリリース (開催前告知) / 防災行政無線 / チラシ配布 / 新聞折り込み

参加報告受付方法

窓口 / 電話 / FAX / 回収BOX

チャレンジデーに向けた取組み

- ・チャレンジデー最後のイベント「秋田県の特産品プレゼント」を実施し、報告者の中から抽選で10名に特産品をお渡ししました。
- また、チャレンジデーの周知とチャレンジデーに取り組むきっかけづくりとして、全世帯に設置している防災無線を活用し、午前10時と午後3時にラジオ体操を放送しました。

プログラム

- ①チャレンジデーウォーキング大会(農村公園) 7人
公園に新たに設定したウォーキングコース「すこやかロード」を紹介し、実際にコースを歩いて楽しみました。
- ②あいべつ“ぶち”スポッチャ(愛別町農村環境改善センター) 32人
全町民対象ですが、子どもが楽しめるような内容で、ストラックアウトやキックアウト、だるま落とし、キックボウリングなどの種目を行い、順位を競うイベントを実施しました。
- ③早朝ラジオ体操(愛別町内4ヶ所) 37人
午前6時30分から町内4つの公民館分館施設を利用し、NHKラジオ体操に合わせて実施しました。
- ④チャレンジデーミニバレー大会(愛別町B&G海洋センター) 34人
参加8チームを2つのブロックに分けリンク戦を行い、順位を決定するミニバレー大会を行いました。
- ⑤ポッチャ体験会(愛別町総合センター) 23人
パラリンピックの正式種目であるポッチャの体験会として、競技について説明した後、参加者を8チーム2ブロックに分けリンク戦を行い楽しみました。

スポーツ振興に関する計画

無

その他計画におけるスポーツ振興の記載

有[愛別町振興計画、愛別町教育振興基本計画]
 (計画の中でチャレンジデーに関する記載：有)

実行委員会の構成団体

【行政】スポーツ担当部署 / 教育担当部署
 【スポーツ関連組織・団体】体育(スポーツ)協会事務局 / スポーツ推進委員協議会
 【その他】自治体・町内会

製作物(自治体独自で製作、SSF提供、購入分含む)

チラシ	2,400枚	箱ティッシュ	960個
ポスター	100枚		
Tシャツ	50枚		

公共施設(チャレンジデー利用施設 / 自治体保有施設)

体育館	2/2カ所	庭球場	0/1カ所
トレーニング場	0/1カ所	野球場・ソフトボール場	0/1カ所
公民館	1/7カ所	ゲートボール・クローカー場	0/1カ所
高齢者福祉施設	0/2カ所	公園(運動公園含む)	1/1カ所
障害者施設	0/1カ所	公立小学校	1/1カ所
児童福祉施設	0/1カ所	公立中学校	1/1カ所
多目的運動場広場	0/1カ所	公立高校	1/1カ所
水泳プール(屋外)	1/1カ所		



チャレンジデーウォーキング大会



あいべつ“ぶち”スポッチャ

主催

芦別市チャレンジデー実行委員会（芦別市長 荻原 貢）
 芦別市教育委員会体育振興課体育振興係
 〒079-1371
 北海道芦別市上芦別町6番地（芦別市総合体育館）
 TEL：0124-24-2525 FAX：0124-22-5807

メディア

プレス空知

広報・周知

ウェブサイト／Facebook／LINE（自治体アカウント）／自治体広報誌（開催前告知）／自治体広報誌（開催報告）／プレスリリース（開催前告知）／チラシ配布／新聞折り込み

参加報告受付方法

窓口／電話／FAX／メール／回収BOX／QRコード

チャレンジデーに向けた取組み

・対戦相手の山形県中山町とオンラインツールZoomを活用し、チャレンジデー前日に首長同士のエール交換を実施しました。

プログラム

- ①みんなでラジオ体操会（実行委員会主催会場：8会場、町内会・老人クラブ主催会場：8会場）446人
市内各所にて、ラジオ体操第1および第2、ストレッチ体操を実施しました。
- ②芦別版ミニチャレンジデー（市内各所）685人
同規模の市内事業所同士で15分以上運動した方の参加率を競い合いました。
- ③スポーツ施設無料開放（総合体育館ランニングコース・ウエイトトレーニングコーナー、芦別市民PG場、B&G海洋センタープール）80人
チャレンジデー当日、各施設を無料開放しました。
- ④ラグビー体験会（芦別市総合体育館アリーナ）48人
芦別ラグビー協会より講師をお招きし、初心者を対象とした体験会を実施しました。
- ⑤フットサル体験会（芦別市総合体育館アリーナ）38人
市内在住の現役フットサル選手を講師にお招きし、初心者を対象とした体験会を実施しました。

実行委員会の構成団体

【行政】教育担当部署／健康担当部署
 【スポーツ関連組織・団体】体育（スポーツ）協会事務局／スポーツ少年団／スポーツ推進委員協議会
 【健康・福祉関係】高齢者団体・老人クラブ
 【その他】商工会・青年会議所／自治体・町内会／農業協同組合

製作物（自治体独自で製作、SSF提供、購入分含む）

チラシ	5,200枚	ポケットティッシュ	4,000個
ポスター	70枚	ソフトタックルバンド	150個
Tシャツ	55枚		

公共施設（チャレンジデー利用施設／自治体保有施設）

体育館	4/4カ所	庭球場	0/1カ所
公民館	0/1カ所	野球場・ソフトボール場	0/3カ所
高齢者福祉施設	4/8カ所	球技場	0/1カ所
障害者施設	0/1カ所	公園（運動公園含む）	4/55カ所
児童福祉施設	2/2カ所	パークゴルフ場	3/4カ所
地域生活支援センター	0/1カ所	公立小学校	2/2カ所
多目的運動場広場	0/1カ所	公立中学校	2/2カ所
水泳プール（屋外）	1/2カ所	公立高校	1/1カ所

運動・スポーツの習慣化に向けた取組み

- ・スポーツ施設無料開放（総合体育館ランニングコース、総合体育館ウエイトトレーニングコーナー、芦別市民PG場、B&G海洋センタープール）を実施しました。
- ・チャレンジ☆ウォーキングを実施しました。
- ・ラグビー体験会を実施しました。
- ・フットサル体験会を実施しました。
- ・チャレンジ☆Newスポーツを実施しました。

スポーツ振興に関する計画

無

その他計画におけるスポーツ振興の記載

有[第6次芦別市総合計画、第3次芦別市生涯学習推進計画]
 （計画の中でチャレンジデーに関する記載：有）



みんなでラジオ体操（北大通）

人口：7,639人
 参加者数：3,435人
 参加率：45.0%
 取得メダル：銀

北海道枝幸町 ●●
 VS
 青森県藤崎町 ○
 岩手県軽米町 ○

主催

枝幸町チャレンジデー実行委員会（枝幸町長 村上守継）
 保健福祉課保健予防グループ
 〒098-5892
 北海道枝幸郡枝幸町本町916番地
 TEL：0163-62-4658 FAX：0163-62-3353

メディア

日刊宗谷／北海道新聞

広報・周知

自治体広報誌（開催前告知）／自治体広報誌（開催報告）／メディア関係者への依頼／地元ケーブルテレビのCM／チラシ配布／新聞折り込み

参加報告受付方法

窓口／電話／FAX／メール／回収BOX／ウェブサイト（報告フォーム）／QRコード／声掛け

プログラム

- ①ラジオ体操会（枝幸町役場駐車場）55人
 10月まで行うラジオ体操会の初日をチャレンジデーで行いました。お子さんから高齢な方までたくさんの方が集まり体操しました。
- ②ズンバ教室
 （枝幸地区：研修施設、歌登地区：うたのぼり交流センター 歌種）19人
 インストラクターを町外から招き、2会場でズンバ教室を実施しました。歌登地区では小さなお子さんも一緒に参加され、リズムに乗って体を動かすことができました。
- ③ノルディックウォーキング教室（枝幸町すこやかロード）6人
 ポールをもって、すこやかロードを歩きました。すこやかロードの看板を確認しながら歩けたので、チャレンジデーの後も個人で歩くことができます。ポールの正しい使い方学び、気持ちよく歩くことができました。

実行委員会の構成団体

【行政】スポーツ担当部署／健康担当部署／福祉担当部署
 【スポーツ関連組織・団体】体育（スポーツ）協会事務局／スポーツ少年団／スポーツ推進委員協議会／総合型地域スポーツクラブ
 【その他】民生委員協議会

製作物（自治体独自で製作、SSF提供、購入分含む）

チラシ	8,250枚	ポケットティッシュ	2,000個
ポスター	200枚		
Tシャツ	55枚		

公共施設（チャレンジデー利用施設／自治体保有施設）

体育館	1/2カ所	庭球場	0/2カ所
トレーニング場	0/1カ所	野球場・ソフトボール場	0/3カ所
水泳プール（屋内）	0/1カ所	ゲートボール・クローカー場	0/2カ所
公民館	0/27カ所	ゴルフ場	0/1カ所
高齢者福祉施設	0/2カ所	公園（運動公園含む）	0/13カ所
障害者施設	0/1カ所	柔剣道場（武道場）	0/2カ所
児童福祉施設	0/4カ所	公立小学校	7/7カ所
多目的運動場広場	0/1カ所	公立中学校	2/3カ所
水泳プール（屋外）	0/1カ所	公立高校	1/1カ所

運動・スポーツの習慣化に向けた取組み

- ・カラダすっきり運動教室を月1回（2地区×3教室）実施し、そこで案内をしていました。
- ・「枝幸町 運動・スポーツ紹介」を作成しました。枝幸町で運動できる場、機会の情報をリーフレットにし、そこにチャレンジデーも掲載しました。

スポーツ振興に関する計画

無

その他計画におけるスポーツ振興の記載

有〔枝幸町健康増進計画〕
 （計画の中でチャレンジデーに関する記載：無）



ズンバ教室 枝幸



ハマナス大学